

年頭のご挨拶



恩納村長
長浜 善巳

村民の皆様、明けましておめでとうございます。皆様が健やかで希望に満ちた新年を迎えられたことを、心よりお喜び申し上げます。私が村長に就任して以来、恩納村の未来を見据えながら、子育て支援や村民の笑顔が広がる元気な村づくりなど、地域を支える人材の育成に取り組んでまいりました。これまでに掲げた公約を一つひとつ実現できたのも、村民皆様の温かいご理解とご支援のお陰であり、心から感謝申し上げます。引き続き、村民の皆様と手を携えながら、更なる発展と住み良い村づくりを目指して取り組んでまいりたいと思います。

さて、昨年を振り返ると、国内外で多くの自然災害が発生した一年だったと思います。特に、元旦早々に能登半島を大地震が襲い、建物の倒壊や土砂崩れが発生し、被災された現地の皆様はもちろんのこと、私自身も大きな衝撃を

受けました。平穩であるべき新年の始まりに、こうした災害が起こったことに胸が痛みました。

さらに、4月には台湾東部沖を震源とする最大震度6強の大きな地震が発生し、八重山地方や沖縄本島に津波警報が発令され、多くの住民や観光客が高台に避難されましたが幸いにも何事もなく避難勧告は解除となり安堵いたしました。そんな中、まだ記憶に新しい本島北部地区において、観測史上最大規模の水害が発生し、川の氾濫や土砂崩れが各地で相次ぐなど、広範囲にわたる大きな被害が発生しました。本村では南恩納区で床上浸水被害が発生し、伊武部希望ヶ丘では道路が冠水し、車両が水害に見舞われました。これらの被害は、大きな教訓を得るとともに、今後さらに防災体制の強化を図り災害に強い村づくりに向けて、日々の備えが大切であることを改めて実感した一年でした。災害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興と、皆様が安心して暮らせる日々が戻ることを心から願っています。

そんな中、昨年の恩納村の出来事を振り返って見ますと、多くの村民のご支援とご協力により大変実り多き一年となりました。うんなまつりをはじめ、15年目を迎えた池袋サンシャインシティでの「沖縄めんそーれフェスタ」や第10回「美ら海花火大会」など、様々なイベント会場で村民の方々と接する機会をいただき、大変充実した一年を過ごすことができました。特に、

おんなの駅「なかゆくい市場」は、2004年に多くの期待を受けてオープンし、昨年20周年を迎えました。これまで成長を支えてくださったお客様や農家の皆様、そして地域の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。このまま立派に成長され「活気と賑わいのある市場」として、県内外からのお客様から高い評価をいただいております。そして村商工会におかれましては、1945年の設立以来、半世紀にわたり本村の地域産業の育成や振興にご尽力され、地域に根差した活動を展開されてこられましたことに対し心から敬意を表する次第であります。

また、恩納村の社会経済活動が元の活気を取り戻し、観光業界も再び活発になり、その結果、国内外から多くの観光客が訪れると同時に、全国の皆様から「ふるさとづくり応援寄付金」や「企業版ふるさと納税」への多大なご支援をいただき、寄付金額は年々増加しています。今後さらに多くのご支援が期待されます。今年も、魅力ある村づくりや特産品の発信、リゾートホテルの宿泊券などを通じて、全国の皆様に恩納村を応援していただけるよう努力してまいります。また、村民の幸せな生活を実現するため、初心を忘れず、魅力ある「サンゴの村」づくりとSDGs未来都市の推進に向けて、人材の育成と確保に力を入れてまいります。

結びに、今年一年が村民の皆様にとりまして、素晴らしい年であることを祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。